

都民連だより

冬
号

令和2年1月
(第55巻3号)

特集 新春のごあいさつ・都民連新役員紹介

- 民児協活動紹介「神楽鳩子の班活動探訪①」 ●わがまち100⑩
- 都民連通信「第73回東京都民生委員・児童委員大会」(別紙:大会宣言)
- キラリ☆この人 ●東社協コーナー ●活動記録あれこれ ●ミンジーレポート ●編集後記



【写真提供:しながわ観光協会】

東京散歩

真了寺 「水ごり修行」 (品川区)

日蓮宗 光照山 真了寺こうしょうざん しんりょうじは、延宝元(1673)年に天妙国寺てんみょうこくじ たつちやうの塔頭寺院として建立されました。境内にあるカ石(1789年、諏訪大明神祭礼時のカ比べで使われたカ石)と並び、冬の風物詩として有名なのが「水ごり修行」です。水ごりとは冷水を浴びて心身を清浄にする荒行を言い、真了寺では豊穰を祈願して毎年1月に行っています。100名ほどの参拝客が見守る中、寒空の下で行われる水ごりは迫力満点で「見ているだけで凍える気分になるけれど、新たな年のスタートに身が引き締まる」と話す方もいるとか。令和になって初めての新年です。暖かくしてぜひお出掛けください。

開催日: 令和2年1月19日(日) 問い合わせ先: 03-3471-8753

交通アクセス: ●京浜急行線青物横丁駅より徒歩約5分
●りんかい線品川シーサイド駅より徒歩約10分



新春のごあいさつ



東京都民生児童委員連合会
会長 寺田 晃弘

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

この度の一斉改選にて、はからずも二期目となる会長の重責を仰せつかることとなりました。役員一同、決意を新たに全力で取り組んでまいりますので、皆様のご指導並びにご支援をよろしくお願い申し上げます。

今回の改選で都内の定数は一万八一四名、民児協数は四〇一となりました。約一五〇名の新しいお仲間をお迎えすることができ、東京都及び各区市町村関係者の皆様のご協力で御礼申し上げます。さて、昨秋の台風15号と19号は、東京でも大規模な浸水被害や土砂崩れなど大きな爪



痕を残しました。被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げますとともに、高齢者など気になる方に避難を促したり避難所での支援活動に尽力された委員の皆様に感謝申し上げます。当日は私も避難所の立ち上げから撤収まで協力しましたが、一方でその運営に課題を感じた方も少なくなかったと聞いています。

こうした風水害のみならず首都直下地震や火災等、ご承知のように東京には多くの災害リスクが潜んでいます。本会としても、民児協の皆様方の豊かな知識と経験を結集し、新しい仲間とともに互いに支え合いながら、誰もが安全に安心して暮らし続けられる東京の実現のために励んでまいります所存です。

本年も、どうぞよろしく
お願い申し上げます。

都民連 新役員紹介

12月の一斉改選後、都民連の会長、副会長、常務委員、常任協議員が次のように決まりました。今期はこのような体制でまいります。

副会長

副会長は、区部3名、市部2名が選出されました。会長を補佐し、その職務を代理する役割を持っています。



相田 義正
(板橋区)



下田 和恵
(文京区)



貫名 通生
(新宿区)



池永 和子
(清瀬市)



小川 時雄
(調布市)

(地区順)



常務委員

常務委員は、常任協議員のうち、9つのブロックから1名ずつ選出され、会長・副会長とともに常務委員会を組織します。常務委員会では、本会事業の企画・準備に関する話し合いを行います。



前列（右から）

鈴木 英子（1ブロック 中央区）

西村 泰一（2ブロック 台東区）

坂本 雅則（3ブロック 世田谷区）

田中 敏（4ブロック 練馬区）

鎌形由美子（5ブロック 墨田区）

後列（右から）

紀 初子（6ブロック 多摩市）

川畑美和子（7ブロック 小金井市）

島山香壽恵（8ブロック 東村山市）

山下 忠義（9ブロック 羽村市）



常任協議員

常任協議員は、各区市郡支庁民児協会長（いわゆる代表会長）の方々です。常任協議員会では、本会事業の執行について話し合います。

角谷 幸子（千代田区）

野尻三重子（港区）

小倉 孝夫（江東区）

岡村佐智子（品川区）

松崎ひろ子（目黒区）

吉田 久司（大田区）

鷺頭 和江（渋谷区）

小野 武（中野区）

三田 利春（杉並区）

田中 義正（北区）

笠島 伸介（荒川区）

市村 智（足立区）

小林 隆猛（葛飾区）

大西 正男（江戸川区）

山本 英雄（八王子市）

中村喜美子（立川市）

矢島 和美（武蔵野市）

塩川 光子（三鷹市）

中村 佳美（青梅市）

北島 章雄（府中市）

日恵野裕之（昭島市）

町野真里子（町田市）

竹内よし子（小平市）

山田 哲道（日野市）

内藤 孝雄（国分寺市）

藤沢 行男（国立市）

板寺 正行（福生市）

市川 衛（狛江市）

鈴木セツ子（東大和市）

篠宮 松美（東久留米市）

大谷恵美子（武蔵村山市）

原田 正行（稲城市）

石村 八郎（あきる野市）

篠宮 武男（西東京市）

古山 博大（西多摩郡）

吉本みな子（大島支庁）

高松 英夫（三宅支庁）

菊池 清泰（八丈支庁）

山田 捷夫（小笠原支庁）



民児協

活動紹介

神楽鳩子の

班活動探訪 ⑪



墨田区第一地区

民児協

〔定数28名・班編成3班〕

一斉改選で、鳩子の民児協でも委員の交代がありました。新任委員が安心して活動に臨めるような配慮が必要と感じています。そこで今回は、班活動を通して新任委員の不安や負担感を軽減する体制を整備している地区を訪れました。

委員同士の交流のきっかけとして

墨田区第一地区民児協（以下、第一地区）では、平成25年度改選期から民児協の一部で班活動を試行していました。元々ベテラン委員が多い地区でしたが、28年度には11名の新任委員を迎えました。そこで、定



例会以外でも委員同士の情報共有の必要を感じ、第一地区全体で班活動を導入。お茶飲み会という交流を推奨しました。

現在は、民児協内の6町会を2地区ずつ（右図参照）に分け、3つの班を編成（主任児童委員は班によらず、地区全体で活動）。下田信二郎会長と職務代理副会長、他4名の副会長がペアを組み、班のリーダーとなって取り組んでいます。

新任委員から寄せられた質問・悩み

各班のお茶飲み会で、日

ごろの活動から感じた悩みや疑問などを出し合ったところ「地域の高齢者から身の回りの世話を頻繁に頼まれたり話し相手に呼ばれたりすることも多い。どこまで関わればよいか」といった新任委員の相談がありました。他にも「募金への協力を依頼されたが、現金のやりとりは不安だし、追い返されはしないか精神的に負担」という悩みや「研修等で他地区の委員と情報交換すると、墨田区が独自に取り組んでいる活動もあり、地域差を感じる」「テレビなどで他地区の委員が高齢者宅を全戸訪問している様子などが紹介されると、自分自身もすべきか悩む」といった話が出ました。

誰もが活動しやすい民児協であるために

班のお茶飲み会は、各町会の会館や集会所で行われます。定例会と違い、委員同士が経験年数を超えて



▲白熱する情報共有の一場面

を情報提供するといよい」という助言があったそうです。一方募金への協力は、墨田区では委員が社協協力員を兼任しているためという理由を説明し、依頼の際のコツなどを伝えました。また、他地区の取り組みは参考にしながらも、初めから何でもやろうとせず、できる範囲で活動してほしいとアドバイスされました。

ざつくばらんに意見交換できるこの取り組みは、交流の機会を広げただけでなく、ベテラン委員が長年培った豊かな経験を第一地区の次代を担う新任委員に継承する機会にもなっています。ベテラン委員のアドバイスやサポートによって、多くの新任委員から、班にはなんでも話せる雰囲気があり、安心できる場であったとの声が聞かれました。

下田会長は、こうした声から、活動上の負担軽減策の一つとして班体制の導入に可能性を感じているそうです。誰もが安心してお互いに高め合える民児協づくりに向けて、今後も班による交流を継続したいと、語られました。

活動に不安や負担を感じている新任委員にとって、的確にアドバイスされる先輩委員は正に頼れる存在です。少人数の班体制で、より交流が深まることが分かりました。



わがまち

100

一〇〇周年を記念し策定した「東京版 活動強化方策」では、①個別支援活動の向上 ②体制制の確立 ③民児協組織の強化 ④児童委員活動の充実 ⑤協働による地域福祉活動の5本の柱をもとに、わがまちならではの取り組みの推進を図っています。今回は杉並区の訪問活動「安心おたっしや訪問」と、三宅島の「島外入院入所者訪問」の取り組みを紹介します。

杉並区民児協

(定数：433名 民児協数：13)

地域包括支援センターと連携して訪問

平成22年、当時都内最高年齢の高齢者が戸籍上では存在しているもの、実際には亡くなっていった事に端を発した「高齢者の所在不明問題」を受け、杉並区では職員による100歳以上の方の訪問調査を行いました。その後、結果を基に訪問調査の在り方を検討し、平成23年度から行政と関わりの薄い高齢者を積極的に訪問する「安心おたっしや訪問」事業が始まりました。

対象は75歳以上の方のうち「①要介護認定を受けておらず、かつ、過去2年間に医療機関の受診歴がない方」「②要介護認定を受けているが、介護保険サービスを受けていない方」「③要介護認定を受けておらず、かつ、過去2年間に医療機関の受診歴がある方」です。

①②を地域包括支援センター職員が、③を民生児童委員が担当し、訪問件数が膨大となるため、世帯要件も今年は「単身世帯」、次年度は「高齢者のみ世帯」



▲訪問時には、案内チラシや生活に役立つグッズを持って訪問します

など変えて、サイクルを繰り返すことで、すべての対象者を把握するようにしています。

お元気づちからつながりをつくる

民生児童委員の一人当たりの訪問件数は約15世帯ほどです。「まだまだ民生児童委員の世話にはならない」とおっしゃる方もいれば、気に掛けてくれてありがたうと言ってくださる方も、また最近悩み事があると、相談されるケースもあるそうです。①②③の訪問全体のうち5%ほどが毎年支援につながっています。事が大きくなる前に対応することで、信頼関係にもつながり、その後は気軽に相談できる関係が生まれます。

三宅島民児協

(定数：16名 民児協数：1)

温かな関わりが海を越えてつながる

東京から南へ約180キロの位置にあり、1年を通して温暖な気候の三宅島。豊かな自然に囲まれた穏やかな気風の中、住民同士支え合う関係づくりが今も根付いています。

つながっている実感が安心へとつながる

一方で、都内に比べて施設や病院は少なく、入所・入院が必要となると、島外に出なければいけません。そこで、長期にわたって入所・入院生活を送っている方を、三宅島民児協では11月から3月にかけて、長

必要に応じて支援にもつながっていきます。

島民同士、顔を合わせることは「あなたのことを忘れていないよ」というメッセージになって伝わってきます。懐かしい島の暖かな風に乗せて、その方の日々の暮らしにほっとできるひとときを届けています。



▲分担について話し合い楽しみに待っている方がいるからこそ長く続く取り組みです



第73回東京都 民生委員・児童委員大会



令和元年11月26日、文京シビックホールにて開催された本大会には、都内の約1800名の民生児童委員が参加されました。その大会内容をお伝えするとともに、採択された大会宣言について別紙にてご紹介致します。

活動に対する 顕彰と感謝

第一部の式典は、功績のあつた方々への表彰と大会



▲規則表彰贈呈
被表彰者を代表し、梶原副知事から表彰状を授与される清水様

宣言の採択が中心です。

東京都知事表彰は、長年にわたる民生児童委員活動の功績をたたえ、贈られる表彰です。今年度の東京都表彰規則による被表彰者(在職20年以上)は258名、特別功労賞受賞者(在職17年以上)は501名、一般功労賞受賞者(在職10

年以上)は139名でした。受賞されました皆さま、誠にありがとうございます。
都民連会長感謝状は民生児童委員活動にご協力いただいた行政・関係機関の職員にお贈りしています。今大会では42名の方々に贈呈致しました。



▲宣言(案)朗読
議長団の進行により、大会宣言が採択されました(宣言の全文は別紙参照)。

今後目指すべき地域社会 と民生児童委員の役割

第二部は、豊中市社会福祉協議会の勝部麗子氏をお招きし、ご講演をいただきました。

勝部さんがコミュニティソーシャルワーカー(CSW)として活動する大阪府豊中市は、都市化や高齢化によ



▲板橋区民児協合唱隊
「コール民生いたばし」のびやかな歌声に会場全体が魅了されました。

◆次第◆

【式典・宣言】

- 国歌斉唱
- 物故者の追悼
- 民生委員児童委員信条の朗読
金山 見学様(江東区)
- 主催者あいさつ
東京都副知事
東京都民生児童委員連合会会長
- 都知事表彰贈呈
規則表彰 清水 正孝様(調布市)
特別功労賞 市川 和江様(町田市)
一般功労賞 綱川 紫様(杉並区)
- 都民連会長感謝状贈呈
原本 絵里様(練馬区民生児童委員所管課)
- 祝辞
東京都議会議長
厚生労働省社会・援護局地域福祉課長
東京都社会福祉協議会会長
- 被表彰者代表のこたば
海老澤 榮様(西東京市)
- 大会宣言
議長団 福本 行廣様(立川市)
平石 昭夫様(大田区)
矢島 和美様(武蔵野市)
- 宣言(案)朗読
足立 賢一郎様(北区)
- 民生委員の歌斉唱

【コーラス】

板橋区民生児童委員協議会 合唱隊
「コール民生いたばし」

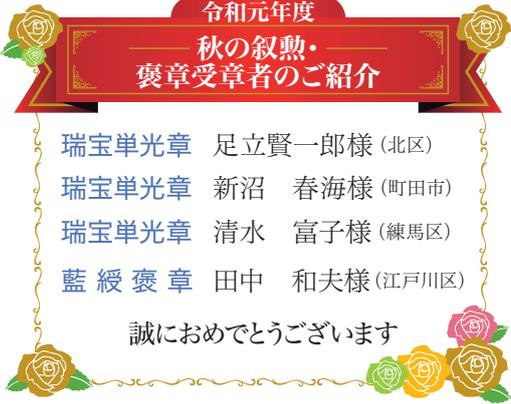
【記念講演】

「ひとりぼっちをつくらない
—地域共生社会の実現と民生児童委員の役割—
勝部 麗子様
(社会福祉法人豊中市社会福祉協議会
福祉推進室長・コミュニティソーシャルワーカー統括)

令和元年度 秋の叙勲・ 褒章受章者のご紹介

- 瑞宝単光章 足立賢一郎様(北区)
- 瑞宝単光章 新沼 春海様(町田市)
- 瑞宝単光章 清水 富子様(練馬区)
- 藍綬褒章 田中 和夫様(江戸川区)

誠にありがとうございます



▲民生児童委員をはじめとした住民が関わる実践について、お話しいただきました。

キラリ★この人



温かな絵と心遣いで地域を明るくする人

昭島市民生児童委員
ふるかわ ちさと
古川 千里さん

▶機関紙「民児協あきしま」の表紙にも掲載されました

パッと目を引くサーモンピンク色のシャツを身にまとう古川さん。色にまつわる造詣が深く、この色が一番自分を体現しているとおっしゃいます。

きっかけは9年前に引っ越し先で偶然出会ったポストカードに惹かれたこと。すぐに地域で開かれる絵の教室に通うようになりました。「今考えると、知らない土地で知り合いをつくりたかったんです」と、絵を通して地域に溶け込んでいく姿勢は今も同じです。最近は、地域サロンでカード作り教室を開催し、

住民との交流を深めています。

古川さんの作品はポストカードにとどまらず、絵手紙や織物、アクセサリーに洋裁まで多岐にわたります。故郷の長崎県の美しい自然や異国情緒あふれる文化に触れて磨かれた豊かな感性が、その創作意欲を後押ししています。

3年目となる民生児童委員活動では、住民との向き合い方に悩みながらも「誰かがやらないとですね。人間助け合って生きていかないといけないですから」と力強く話され、ようやく住民の方との信頼関係ができてきたと、やりがいも感じられるようになりました。

「地域の人が喜んでくれることがうれしいんです」と話す古川さんは、創作活動においても委員活動においても常に心を尽くし、優しさを込めた作品や言葉掛けで人々の心を温めています。



東社協コーナー

東社協（東京都社会福祉協議会）

社会福祉に関わるさまざまな課題の解決や、福祉サービスの向上などを目的として、都内の福祉に関わる関係者の幅広いネットワークづくりを通して、だれもが暮らしやすい地域社会の実現をめざして活動しています。

「高等教育無償化」における教育支援資金と社協の役割

低所得世帯の子どもが十分な教育を受けられないことによる、世代間での貧困の連鎖や、格差の固定化が問題となっています。近年、経済的な理由から子どもたちが進学を断念することがないよう、さまざまな制度の充実が図られ、令和2年4月からは「高等教育における就学支援新制度」（以下、高等教育無償化）が始まります。

高等教育無償化は、大学等の授業料等の減免と給付型奨学金を拡充するものです。しかし、支援の内容は世帯の所得状況や進学する学校によって異なり、私立や理系の大学等へ進学する場合、高等教育無償化だけでは学費等を賄いきれません。また、対象外の学校に進学する場合には、無償化の支援を受けられません。

社協が実施する生活福祉資金の教育支援資金は、低所得世帯に対する貸付制度です。ケースを通じ、借入世帯は学費以外にもさまざまな課題を抱え、目の前の生活に手いっぱいである様子が伺えます。結果として、学費や納期等を踏まえた受験準備や

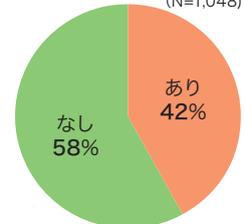
各種奨学金の情報が不足し、手続きが遅れたり、できなかったりというケースも散見されます。

社協では、世帯が有益な情報を見定めることができるよう、高等教育無償化の制度理解を促すとともに、さらに複雑化した学費等の調達方法について、資金計画を立てる支援が必要になります。

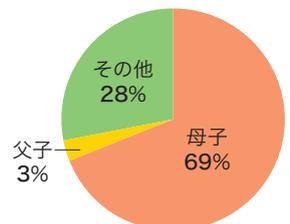
世帯の将来的な生活の安定や経済的な自立につなげるため、社協は民生児童委員とより連携を深めながら、学費以外の課題等も含め、社協の他の機能や社会資源等も活用して支援していくことが求められます。

図 教育支援資金貸付決定者の内訳（東社協平成30年度実績）

生活保護の受給世帯の割合（N=1,048）



生活保護受給世帯の構成





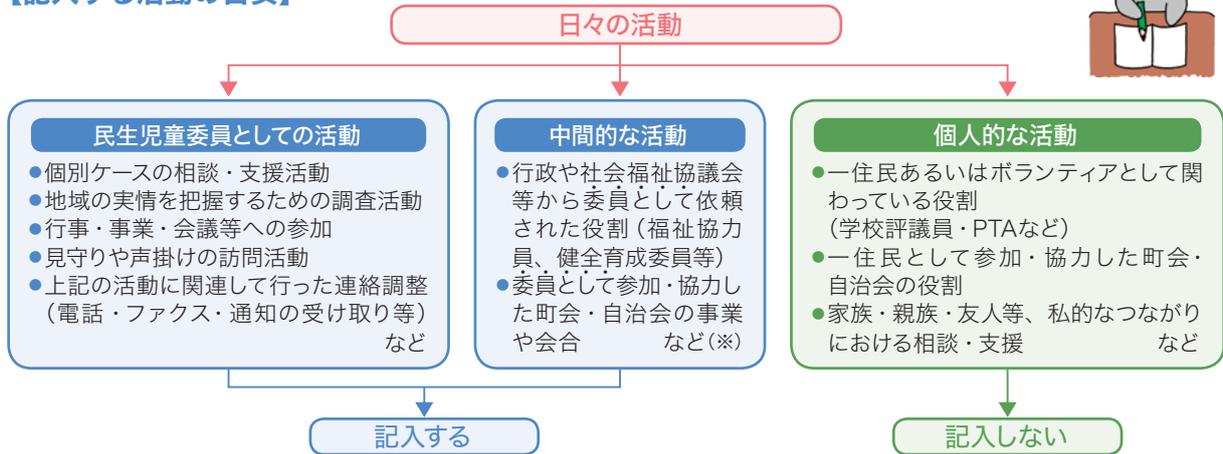
【活動記録とは ～記入する意義～】

「活動記録」は、民生委員・児童委員、主任児童委員（以下、委員）としての日々の活動を記入するもので、集計結果は国の施策にも活用されます。また、**ご自身の活動の振り返りや対応するケースの分析、支援にあたっての課題や方向性を見出す素材にもなるほか、活動件数を数値として見ることで、担当区域の特徴や傾向を客観的に知る**ことができます。

民児協としても、個人の記録をとりまとめ、**他地区の集計結果と比較したり、活動目標や研修計画を立てるための基礎資料**とすることが可能です。



【記入する活動の目安】



【ご注意ください】

- ① 訪問や来訪、連絡調整などは日がたつと忘れてしまいがちです。できるだけその日のうちに記入しましょう。
- ② 活動記録には、世帯の個人情報に記載される場合があります。外に持ち出すことのないようにしましょう。

※その他の「中間的な活動」の目安
・民児協で申し合わせた活動
・委員として協力している見守りなどのボランティア活動



ミンジーレポート

こんなに違う!? 世界の福祉

第8回

アメリカ合衆国～病気に伴うケア事情～



今回は、アメリカで充実している「ホスピスサービス」に注目するよ。これには延命治療は含まれず、命に関わる病気にかかっている人のつらさを和ら

げるケアに特化しているんだ。病気の内容を問わずに、医療制度として費用も保障され、ほぼ半数の人が利用しているそう。介護の多くは在宅なので、看護師が訪問し、薬の相談やカウンセリング、またリハビリや入浴支援の他、介護者の休息のための短期入院にも対応するよ。

それと、病院には「チャプレン」という、患者や家族の心のケアを専門とするスタッフがいるんだって。治療方針の選択から、人生観に至るまで、幅広く話を聞き、心の葛藤に寄り添う役割をしているそうだよ。

患者と家族の心穏やかな日々を重視するんだね。



編集委員

小田島眞理子（千代田区） 田中 千津子（文京区）
山内 壽子（品川区） 安井 敦子（豊島区）
宮本 勝男（足立区） 五辺 博子（狛江市）
石川 謙一（府中市） 森田 節子（清瀬市）
北村 実（昭島市）

編集協力

池永 和子（都民連副会長：広報担当）

編集後記

3年間携わった本紙の編集も今号で最後です。最初は簡単な気持ちで参加していましたが、各地の活動の違いや、皆さまの活動に役立つようにとの思いにあふれた熱心な意見交換は新鮮そのものでした。多くの方に読んでいただきたいと思いながら、楽しく参加したくなる不思議な編集会議でした。

会議の一員として受け入れてくださった池永副会長、編集委員の方々に感謝しかありません。本当にありがとうございました。 品川区 山内壽子

発行

東京都民生児童委員連合会
〒162-0823
新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4階
TEL: 03 (3235) 1163 FAX: 03 (3235) 1169
E-mail: tominren@tcs.w.tvac.or.jp
年4回発行 印刷：株式会社トライ